



Y.Machida

ジャパン・オータムインターナショナル

THE QUEEN ELIZABETH II CUP 第49回 エリザベス女王杯 (GI)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞130,000,000円 52,000,000円 33,000,000円 20,000,000円 13,000,000円
 付加賞 3,654,000円 1,044,000円 522,000円

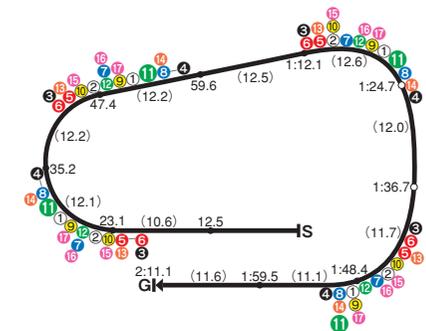


牝、3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 3歳54%、4歳以上56%

2024.11.10 京都 豊・曇 芝2200m (国際) (指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	スタンingローズ	牝5	56	C.デムーロ	2:11.1	4-4-4-2	34.0	498(+6)	9.5③	高野友和(栗東)	113
2	⑥	ラヴェル	牝4	56	川田将雅	2	8-8-8-9	34.1	468(-6)	41.2②	矢作芳人(栗東)	109
3	①	ホールネス	牝4	56	坂井瑠星	¾	5-5-5-5	34.4	536(±0)	8.7②	藤原英昭(栗東)	108
4	⑧	シンリョウカ	牝4	56	木幡初也	クビ	2-2-3-2	34.6	462(+4)	12.9⑥	竹内正洋(美浦)	108
5	⑦	レガレイラ	牝3	54	C.ルメール	ハナ	8-8-10-9	34.1	472(+4)	1.9①	木村哲也(美浦)	108
6	②	ライラック	牝5	56	石川裕紀人	ハナ	11-11-11-11	33.9	448(-10)	35.7⑩	相沢 郁(美浦)	108
7	⑬	サリエラ	牝5	56	R.ムーア	1	14-14-14-14	33.9	418(-6)	12.9⑤	国枝 栄(美浦)	106
8	⑤	ゴールドエクリプス	牝5	56	田口貴太	ハナ	12-12-11-11	34.2	498(+2)	195.4⑩	大久保龍志(栗東)	106
9	⑭	コスタポニータ	牝5	56	松山弘平	½	6-6-6-5	34.7	482(+4)	54.4⑩	杉山佳明(栗東)	105
10	⑩	シンティレーション	牝5	56	T.マカド	¾	8-8-8-8	34.6	476(-4)	10.4④	池上昌和(美浦)	104
11	⑨	キミノナハマリア	牝4	56	鮫島克駿	½	6-6-6-5	34.8	506(-2)	39.3⑩	千田輝彦(栗東)	103
12	⑭	エリカヴィータ	牝5	56	藤岡佑介	ハナ	12-12-11-13	34.3	464(-8)	207.5⑩	国枝 栄(美浦)	103
13	③	ルージュリナージュ	牝5	56	池添謙一	クビ	16-16-16-17	34.0	444(-4)	53.0⑩	宗像義忠(美浦)	103
14	⑤	モリアーナ	牝4	56	岩田康誠	1½	14-14-14-14	34.4	482(±0)	30.1⑩	武藤善則(美浦)	101
15	⑥	ピースオブザライフ	牝4	56	団野大成	5	16-16-16-16	35.3	488(+6)	128.8⑩	野中賢二(栗東)	93
16	④	コンクシェル	牝4	56	岩田望来	2	1-1-1-1	36.9	480(-2)	25.8⑩	清水久詞(栗東)	90
17	⑭	ハーバー	牝4	56	武 豊	¾	2-2-2-2	36.9	486(-2)	19.1⑦	友道康夫(栗東)	89

単勝①950円(3%) 複勝①340円(3%) ⑥810円(12%) ①300円(2%) 枠連⑥-⑥4,370円(14%)
 馬連①-⑥16,020円(40%) ワイド①-⑥3,620円(39%) ①-⑥1,560円(17%) ①-⑥4,630円(54%)
 馬単①-⑥26,990円(67%) 3連複①-⑥44,140円(124%) 3連単①-⑥①278,100円(668%)
 5重勝②⑥⑤①464,963,450円(1票) 対象競走: 東京10R/京都10R/福島11R/東京11R/京都11R



アラカルト

- ・C.デムーロ騎手はジェラルディーナで制した22年に続くエリザベス女王杯2勝目。JRA重賞は24年初勝利、通算14勝目
- ・高野友和調教師はエリザベス女王杯初勝利。JRA重賞は24年2勝目、通算28勝目
- ・キングカメハメハ産駒はJRA重賞通算144勝目
- ・5歳馬の勝利は20年ラッキーライラックに続く通算7回目(古馬混合となった96年以降)
- ・ホールネスの馬体重536kgは84年ハギノディスカバーの馬体重528kgを更新する本競走出走馬の最高馬体重記録

スタニングローズ *Stunning Rose*

牝 鹿毛 2019.1.18生
 北海道安平町 ノーザンファーム生産
 馬主・(有)サンデーレーシング 栗東・高野友和厩舎
 馬名意味・魅力的な薔薇

ローザネイFR系 F1-w

キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo 鹿毛 1990	Mr.Pro prospector Miesque
	マンファスIRE 黒鹿毛 1991	Last Tycoon Pilot Bird
	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy Blue Avenue
	ローズノボ 青毛 1998	サンデーサイレンスUSA ロゼカラ

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×S5 Mill Reef S5×M5

INTERVIEW

重永亮 厩舎長(ノーザンファーム空港)

いきなりのGIでも期待していました

クイーンS後から牧場で調整をおこなってきました。速い時計の調教における体幹と運動神経の良さには、さすがGI馬だと思われました。いい状態で本州に送り出せましたが、ノーザンファームしがらきだけでなく、高野厩舎でも順調にきていると聞いていたので、いきなりのGIでも期待していました。競馬場へ応援に行っていたので、目の前での勝利は格別でした。

H.Yamanaka



3歳春のフラワーCで重賞初制覇を果たし、続くオークスでも2着に食い下がった本馬は、秋に紫苑S、秋華賞を連勝。スターズオンアースの牝馬三冠制覇を阻んで戴冠を果たした実績を持つ。その後は6戦して中山記念(4歳時)の5着が最高着順と不振に陥っていたが、この日は持ち前の長い末脚を存分にアピール。早めに先頭に立つて押し切った秋華賞を再現するような走りです。女王の座に再び咲いた。

父キングカメハメハ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 詳細はP.6参照

母ローザブランカ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央18戦3勝(都井岬特別)、22年死亡
 バンゴール(12 牝父キングカメハメハ)中央20戦5勝(長岡S、テレビ山梨杯、石和特別)
 トレジャートローヴ(13 牝父ハービンジャーGB)中央30戦3勝、地方12戦0勝
 フォースライン(14 牝父ワークフォースGB)中央25戦4勝(是政特別)
 ロサグラウカ(15 牝父ルーラーシップ)中央15戦4勝(グレイトフルS、水仙賞)
 シエラブランカ(16 牝父タートルボウルIRE)不出走
 ブラウローゼン(17 牝父ロードカナロア)中央4戦0勝
スタニングローズ 本馬(19 牝父キングカメハメハ)中央17戦6勝(エリザベス女王杯^{G1}、秋華賞^{G1}、紫苑S^{Gm}、フラワーC^{Gm}、こぶし賞、オークス^{G1}2着、サウジアラビアロイヤルC^{Gm}3着)獲得総賞金426,216,000円
 ローザサンリヴァル(21 牝父ルーラーシップ)中央6戦1勝 ④
 ブルーミングローズ(22 牝父サートゥルナーリア)中央2戦1勝 ④
 ※18(不受胎)、20(産駒死亡)

祖母ローズバド

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央3勝(フィリーズレビュー^{Gm}、マメイドS^{Gm}、オークス^{G1}2着、秋華賞^{G1}2着、エリザベス女王杯^{G1}2着、ローズS^{Gm}2着、府中牝馬S^{Gm}2着、阪神牝馬S^{Gm}3着)、19年用途変更
 ローザブランカ(05 前出)
 ローズリパブリック(06 牝父クロフネUSA)中央2勝、障害0勝
ローズキングダム(07 牝父キングカメハメハ)中央6勝(ジャパンC^{G1}、朝日杯フューチュリティS^{Jn}I、京都大賞典^{Gm}、神戸新聞杯^{Gm}、東京スポーツ杯2歳S^{Jn}Ⅲ、日本ダービー^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着)、最優秀2歳牡馬、種牡馬
 ローゼンケーニヒ(09 牝父シンボリクリスエスUSA)中央4勝(三木特別)
 ロザリウム(11 牝父キングカメハメハ)中央0勝、**ゼルトザーム** ④(函館2歳S^{Gm}、兵庫ジュニアグランプリ^{Jn}I 3着)の母

曾祖母ロゼカラ

北海道早来町 社台ファーム生産 持込 中央2勝(デイリー杯3歳S^{Gm}、シンゲン記念^{Gm}2着、秋華賞^{G1}3着)、15年死亡、**ローゼンクロイツ**(金鯱賞^{Gm}、中京記念^{Gm}、毎日杯^{Gm}、京都2歳S^{Gm}、菊花賞^{G1}3着)の母

秋華賞馬が2年ぶりの復活勝利

17頭の出走馬中、GIウイナーは2頭のみ。やや小粒な顔合わせで争われた秋の女王決定戦は始動戦のローズSを5着に敗れた後、秋華賞はパスしてここに照準を定めてきたホープフルSの覇者レガレイラが、単勝1.9倍と圧倒的な支持を集めた。ここまで6戦4勝、重賞未勝利ながらまだ底を見せていない4歳の新星ホルネスが打倒候補の筆頭と目されたものの、勝利の女神が微笑んだのは3番人気の評価に甘んじていたもう1頭の女王。2022年の秋華賞の覇者スタニングローズが、復活の勝利を飾った。

3月の中山牝馬S(1着)以降、逃げの戦法を買ってきたコンクシエルが大

方の予想通りに先手を奪取。後続に3馬身ほどのリードをつけ、平均的なラップを刻む逃げ馬を遠目に見遣りながら、スタニングローズのC・テムーロ騎手は離れた4番手を進む。最内枠を引いたホルネスは直後の内を追走。五分のスタートを切り、常より出足もついたレガレイラは馬群の中団で進出のタイミングを窺った。

単騎の逃げに持ち込んだコンクシエルは坂の下りから徐々に加速。とはいえ十分な手応えを感じ取っていたテムーロ騎手は残り600m地点からいち早く仕掛け、直線入口では早くも先頭に躍り出る。追撃にかかったレガレイラは他馬と接触して伸び切れず、ホルネスも3着を確保するのが精一杯だったのに対し、スタニングローズは最後までしっかりとした末脚を發揮。中団追走から2着に追い込んだラヴェルに2馬身差をつけ、危なげのないフィニッシュを決めた。